

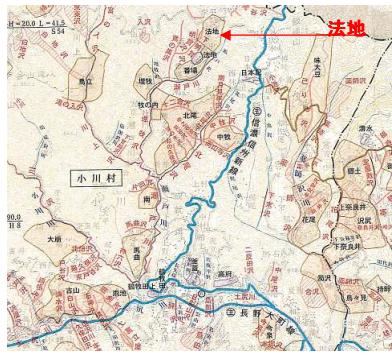
(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

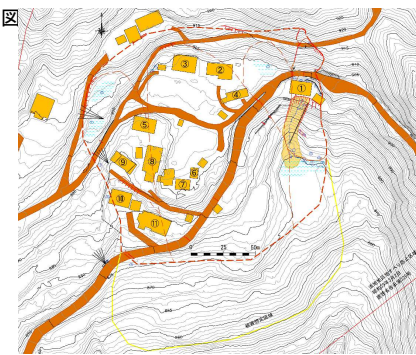
事業名		地すべり対策事業		路河川名等	法地	
事業毎の通番		3	市町村名	小川村	箇所名(ふりがな)	法地(ほうじ)
事業概要	事業目的	平成29年8月豪雨により、村道の一部、家屋の庭先に段差が生じるなどの地すべり活動が確認された。その後地すべり活動は一端膠着状態となったが、10月の台風により地すべり活動が再び活発化し、民家の庭先が崩落するなどの被害が生じた。そのため、地すべり対策事業を実施し、地域の安全・安心を確保する。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	地すべり防止法	
	関連する事業、計画等	災害関連緊急地すべり対策事業				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象人家 11戸、村道550m				
	着手年度	平成30年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	平成34年度	費用対効果	6.4	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	集水井工 N=2基 横ボーリング工 ΣL=2,711m 水路工 L=425m アンカー工 ΣL=1,203m 鋼管杭工 ΣL=1,660m		600,000	300,000	240,000 60,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、道路等の保全			
		間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり			
	評価の視点	必要性	人家戸数:	11戸	評価	B
公共施設:			村道550m			
重要性		要配慮者支援施設:	なし	評価	A	
		河川への土砂流量:	約1万m3			
効率性		過去の災害履歴:	10年以内に1回以上	評価	A	
		交通遮断による地域経済への影響:	村道の被災により近隣住民の生活に影響がある			
緊急性	地域防災計画上の位置付け:	県及び村の両方に位置付けあり	評価	A		
	費用便益比(B/C):	6.41				
計画熟度	事業期間:	平成30~34年度(5箇年)	評価	B		
	工法等の比較検討:	調査・解析を行い工法を検討する				
所管課意見	地すべり活動度:	顕著な動きがある	評価	A		
	地すべり変状:	変状あり				
技術管理室意見	下流の堰堤等の整備状況:	なし	評価	B		
	事業情報の共有:	関係者を中心に周知している				
所管課意見	地域の取り組み:	村から要望があり協力的である	採択状況	総合評価		
	地域の合意形成:	事業目的について合意形成が図られている				
所管課意見	住民の協働:	防災体制整備	○	A		
	災害関連事業により対策工事は一部完了しているが、周辺部に、依然地すべりが観測されているため、追加対策が必要とされる。					

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

位置図



平面図



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】

家屋の被災状況



村道の変状



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成29年8月の豪雨により地すべり活動が確認され、同年10月の台風により斜面崩落等の被害が生じた。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	災害発生を機に、村及び地元区を含む緊急連絡体制を構築している。また、被災した村道が近隣住民にとって重要な生活路線であるため、早期の対策が望まれている。	
③事業説明等の経緯	村、地元区を含む緊急連絡体制により、変状があった場合の通報を依頼している。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	災害関連緊急地すべり対策事業の実施	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	横ボーリング孔口等、地表に露出するものはふとん箆など、自然の資材を用いたもので施工し、環境や景観に馴染むよう配慮する。	
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により地すべり災害の防止が図られ、災害に強い地域づくりが推進される。	
⑦その他	なし	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 58' 44" 63 東経:E 36° 39' 37" 31